ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	白川　ゆう子

主な担当科目	音楽療法各論Ⅲ

2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	今年度は、新たに修士課程の演習科目を担当する。受講生は内部進学者と外部進学者が混在し、学修背景や到達度も多様である。そのため、各学生のニーズに応じた実践的かつ発展的な内容を提供し、専門性の深化を図りたい。学部生については、昨年度に引き続き、低学年から現場に出向く実践的な学びを授業に取り入れ、主体的に学ぶ力の育成を目指す。
2025年の教育に関する自己評価	新たに担当した修士課程の演習科目では、毎回の授業で課題発表の機会を設けたことで、学生同士が互いの視点や考え方に触れ、新たな気づきを得ている様子が見られた。多様な背景を持つ受講生が相互に学び合う場を形成できたと考える。また、学部生の授業では、昨年度まで実施してきた保育園や成人の施設での実践の他、今年度新たに特別支援学校小学部肢体不自由部門の児童との音楽による交流授業を実施し、現場に根ざした貴重な学びの機会を提供することができた。

2025年のFD活動に関する自己評価	音楽療法分科会FD研修会では書記を担当し、議事録の作成を通して研修内容の整理と共有に貢献した。また、音楽教養分科会FD研修会では、音楽療法コース以上に多様な背景を持つ学生が在籍する状況について、他の教員から授業実践や学生の様子を伺う機会を得た。自身の担当コマ数が限られる中でも、学生一人ひとりに応じた柔軟な指導や対応の在り方について学ぶことができた。
授業改善のために取り入れた研修内容	音楽療法コースにおいては、対人援助職としての専門性をいかに高めるかについて、日本音楽療法学会が示すカリキュラムガイドラインをもとに研修で学んだ。そこから展開可能な教育内容を検討し、他の教員と共有することで、コース全体としての教育の方向性や、自身の授業における到達目標を改めて明確にすることができ、授業内容改善につなげることができた。

2025 年度（秋学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：1801　教員名：白川　ゆう子

1）アンケート結果に対する所見

「施設実習Ⅰ」「音楽療法アンサンブルⅡ」はいずれの項目も満点であった。皆さんがシラバスを読み、教育到達目標と学修成果をきちんと理解した上で、興味関心を持って授業に参加されていたことが今回のアンケート結果からも良く伝わってきた。

特に「音楽療法アンサンブルⅡ」では、皆さんの授業外学修の平均時間が 99 分と学短全体平均の 63 分を大きく上回る結果が示された。この授業では、保育園や生活介護の施設への訪問も行ったため、その準備をしっかりと行った結果が反映されたのだと思う。どうしたらより良い活動になるか、皆さん一人一人が主体性を持ってアイディアを共有し、それをチームで形にしていくプロセスが学べたと思う。

2）要望への対応・改善方策

今回、音楽療法科目に関しては、自由記述はなかったので、引き続き、皆さんにとってより良い学びの提供をしたいと考える。

複数担当科目である、音楽教養科目については、「3 年生くらいからやりたかった」や見学と授業の重複があったことを指摘するコメントがあった。これらについては、引き続き音楽教養の先生方と相談し、対応を検討していきたいと思う。

3）今後の課題

皆さんが意欲を持って授業に参加し、授業外学修もしっかりと取り組み、能力を身に付けることができた。身に付けた学修習慣を他の授業にも活かして頂けるようにしたいと思う。

以　上